

# 2013年度図書館主催展覧会報告

2013年度も例年どおり秋、春2回の企画展示を開催した。資料選定からタイトル決定まで、ある程度時間をかけて対応したこともあって、いずれの展示も見応えのある内容となった。

## 図書館企画展

### 1 人がうたをつくるとき —万葉集から校歌まで—

会 期：2013年10月18日（金）～11月20日（木）

会 場：総合学術情報センター2階展示室

秋の企画展は、「うた」をテーマにした展覧会を開催した。一言で「うた」と言ってもさまざまな場である。古代から現代まで、人々はいろいろな場で「うた」をつくってきた。「うた」は、人が、ある時、何かしらの思いを持って切り取った日常（時には非日常）の一コマだと言えるかもしれない。思いの方向と深さは様々だが、今回は何かを「思い遣る心」があっではじめて「うた」がつくられるのではないか、という視点から資料を選定した。たとえば、恋人、友人、故人、母校、小さな生き物たち、そして死、それぞれと向き合った時に生まれた和歌、狂歌、俳句、近代詩などの「うた」の数々を紹介した。出陳資料をできるだけ作者自筆のものとしたことで、直接その声を聴くような、そんな感じを覚えたのではないだろうか。聴きなれた「うた」も、少し見方を変えるとまったく違ったものに感じられる、そんな思いを抱かせる展示となり、好評であった。



統の印刷術もまた大きな変革の時を迎えた。工業技術の発達と識字率の高まりが相俟って、大衆向けの様々な出版物が大量に印刷されるようになってゆく。結果として読書が人々にとって身近なものとなってゆく一方で、粗悪な紙や読みにくい活字、配慮を欠いた版面の本を生み出すことにもなった。

作家・装飾デザイナーとして活躍し、社会運動家でもあったウィリアム・モリス (1834-1896) は、そうした、いわば粗製濫造にも見える印刷のあり方に対抗して、中世の写本や15世紀の初期印刷を理想とし、私家版印刷工房ケルムスコット・プレスを設立、美しい良質の本を印刷することに情熱を注いだ。彼の活動に刺激を受けた人々もまたそれぞれ特色ある印刷工房を設立し、出版活動を進めた。そして、こうした「美しい本を作りたい」という思いはイギリスからヨーロッパ各地、さらにはアメリカへと伝わり、20世紀のブックデザインに少なからぬ影響を与えることとなった。

今回は、ケルムスコット・プレスの刊本を中心に、近年あらたに収蔵したものを含む複数のイギリス私家版印刷工房の刊本を出陳した。これまでこうした切り口からの展示はしていなかったこともあり、資料の多くが初出陳のものとなった。また、19世紀イギリスの出版事情に関する資料、さらには、印刷術の原点へと遡っていただけるよう、中世彩色写本とインキュナブラ（初期の活字印刷本）を特別展示としたが、いずれも好評であった。



## 2

### 美しい本とは、 ウィリアム・モリスと 私家版印刷工房の時代

会 期：2014年3月24日（月）～4月24日（木）

会 場：総合学術情報センター2階展示室

産業革命によってもたらされた新しさと豊かさを謳歌する19世紀ヴィクトリア女王時代のイギリスにおいては、伝

大学は今、積極的な情報発信を求められおり、研究分野の垣根を超えたさまざまな成果が学内の研究者、研究機関から発信されている。図書館が所蔵する資料や情報が、そうした成果を生み出す基盤となっている場合が数多くあるであろうことは言を俟たない。特に図書館の場合、資料、情報を活用するのは学内者に限らない。広く世界の研究者が、その内容に注目し、活用している。いかに多くの方たちに、図書館の持つ資料、情報を知っていただけるか、展覧会は「図書館からの情報発信」のための重要な手段だと考えられる。今後も、積極的かつ独創的な発信につとめてゆきたい。